

蒔かれる種



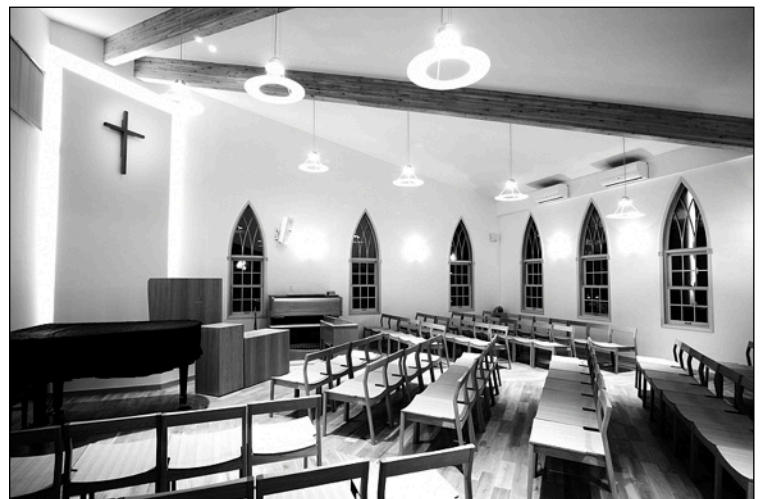
新築された泉聖書バプテスト教会（仙台市泉区）
（費用の一部を義捐金から支援させていただきました）

震災から2年。新緑がまぶしい季節になりましたが、3.11の記憶は被災者の心深く凍りついたままです。「いつになったら」仮設住宅では、将来に対する不安を口にしながら、今日一日を生きるため懸命にもがいている人々の姿があります。

そうした人々への支援では、緊急時の物的支援や、傷ついた人々のためのメンタルケアの他に、確かな確信による霊的なケアが必要です。

何故なら、被災した多くの方々は、今まで人生で築いてきたものを一瞬にして失ってしまっているからです。その喪失感を完全に埋めるには、その人自身の再生が必要であり、そこに教会の果す役割があると考えます。

一教会直接支援の働き一



新礼拝堂

ケリュグマ部門（宣教）

東北ヘルプでは当初から、教会再建のために捧げられた義捐金を、他の支援活動をする目的で捧げられた義捐金と分けて管理運営をしてきました。それにケリュグマ部門と名称をつけたのは、義捐金を捧げてくださる方々の思

いを大切にするためでした。

教会支援を指定された義捐金には、教会が再建され、再び福音が力強く語られることの祈りと願いが込められていると受けとめました。

このような思いが共有され、これま

で教派を越えて国内外の個人及び教会、そして諸団体から多くの義捐金が寄せられましたことを深く御礼申し上げます。

義捐金委員会

地震と津波によって教会が受けた被害は広範囲に渡っていて、被害の程度も千差万別でした。そうした中で義捐金委員会では、被害の大きさだけでなく、教団などの援助によっては復旧が難しい教会を優先的に援助させていただきました。

手続きとして、申請、調査、報告があり、そのためこれまで26回の義捐金委員会を開いてきています。教会再建の必要からすれば、東北ヘルプからの見舞い金や援助金はほんの一部に過ぎませんが、そこに加えさせていただくことの中に、大きな恵みを覚えています。

震災直後には再建が極めて困難のように思っていた教会が再建されている様子を見ると、これが主の業であることを思われるのです。なお、地震と津波による被災教会援助のための申請は、現在は終了しております。

原発事故牧会支援

ケリュグマ部門の義捐金は、被災教会援助の他に、原発被害教会のための牧会支援と、教会ネットワークによる民生支援のために用いられています。

原発事故による被災者支援は複雑で、現地の牧師は今も本当にご苦労されています。この先何年も同じ状況が続くでしょうし、あるいはもっと事態が深刻になることが懸念されています。

東北ヘルプでは、そうした働きの一助になればとの思いで、これまで原発事故牧会支援として申請をしていただいた教会に、支援させていただいています。

先の教会修復のための義捐金申請は東北6県に限らせていただきましたが、この原発事故申請においては地域を限定しておりません。

実はこれも申請期限は既に過ぎているのですが、今後の展開のこともあり、ケースに応じて申請のあったものを検討させていただいています。

教会ネットワーク支援

教会ネットワークによる支援は、青森、岩手、宮城、福島でそれぞれに立ち上がったネットワークを経済的にサイドから支援する働きをしてきました。

具体的には、福島キリスト教連絡会による福島こどもプロジェクトを青森とつなぐことや、教会ネットワークによる仮設住宅支援などがあります。

このような働きは、今後も継続していくことが必要とされていますが、東北ヘルプでは既に多くの義捐金を支出していて、長期の運用が危ぶまれている現状があります。

また、震災当時から比べると、義捐金を寄せてくださる件数が激減しています。そうした中で、被災者に寄り添い、人々に仕えることの中で福音をあかししていきたいと考えています。

数は少なくなりましたが、この働きのため、今も励まし支援をくださる方がいてくださることに、心熱くされています。

どうか今後も主の御心にかなって業が為されますよう、お祈りください。



大規模半壊指定を受けた旧会堂

涙と共に種を蒔く人は、
喜びの歌と共に刈り入れる

(詩127篇5節)



取り壊し中の旧会堂

義捐金委員会・委員長
秋山善久